



ナマズの知恵袋

令和元年（2019年）8月1日
編集・発行 滋賀県立図書館

信楽焼の狸をみれば…～焼物・工芸品を調べる～

「をさなき日 あつめしからになつかしも 信楽焼の狸をみれば」

この歌は、昭和天皇が信楽に行幸された時、信楽焼の狸が沿道で旗を持って迎えたのをたいそう喜ばれて、のちによまれた歌です。昭和天皇も愛した信楽焼をはじめ、滋賀には豊かな焼き物文化があります。陶器・茶道具・日本刀など、日本の伝統的な工芸品の調べ方を紹介します。



信楽焼の歴史・作家・作品を調べる

- ◆『しがらきやきものむかし話 伝統の信楽焼・資料集 信楽焼歴史図録』富増純一編著 信楽古陶愛好会 1998年 SB-7537-98
信楽焼の歴史・起源・技術・鑑賞法などについて詳述。時代別のカラー写真も多数あり、この1冊で信楽焼についてひとつおりのことが学べる入門書となっています。
- ◆『甲賀市史 第5巻信楽焼・考古・美術工芸』甲賀市史編さん委員会編集 甲賀市 2013年 S-2133-5
最新の研究成果に基づき、信楽焼の歴史をわかりやすく記述しています。
- ◆『湖国を彩るやきもの-滋賀の陶芸家たち-特別展』滋賀県立陶芸の森編・刊 2005年 SB-7533-05
滋賀で活躍する陶芸家94人の作品写真と略歴を掲載した図録です。

近江の焼物を調べる…須恵器から幻の名窯湖東焼まで

- ◆『近江のやきもの』滋賀県立琵琶湖文化館編 サンブライト刊 1981年 S-7500-81
『日本書紀』には、新羅の王子天日槍あめのひぼこが渡来し、その従者の陶人が現在の竜王町鏡村近辺に居住したことが記載されています。はるか古代より滋賀県は焼き物の産地であり、現在に至る長い歴史の中で、さまざまな焼き物が生み出されてきました。本書は、本県各地の焼き物についてその種類や特徴等を網羅的に記述した、大変わかりやすい手引書。白黒ですが図版も多数掲載されています。
- ◆『近江やきものがたり』滋賀県立陶芸の森編 京都新聞出版センター2007年 S-7500-07
こちらも県内各地で出土する縄文土器や須恵器から、現代日本を代表する本県在住の陶芸家たちの作品まで、21世紀という時代を見据えて通史的に近江の焼き物をたどったガイドブック。巻末には略年譜、また各遺跡・人物・技術・技法・産地その他の用語解説あり。
- ◆『幻の名窯 湖東焼』サンライズ印刷出版部[編]刊 1996年 S-7551-96
- ◆『珠玉の湖東焼』滋賀県立陶芸の森編・刊 2016年 S-7551-16
湖東焼は江戸時代後期、彦根藩の庇護のもと、「高尚にして精巧」と評された伝説的な焼き物です。幕末から明治という時代の変転に翻弄され短命に終わりましたが、その出来栄の素晴らしさは折り紙付きであり、この2冊の本では、いまも目に鮮やかな逸品の数々をカラー写真で紹介しています。
- ◆『鑑定備考日本陶器全書 2』大西林五郎著 松山堂書店刊 1921年 2-7513-オ
第1巻とあわせて全国各地の陶器を紹介する本書の「近江」の項では、上述以外の滋賀県産の焼き物——膳所焼、比良焼、瀬田焼、姥餅焼、湖南焼、水口焼、楽々園焼、草津焼・床山焼について、簡潔な解説が付されています。約100年前の貴重な文献です。
- ◆『近江の茶陶』滋賀県立琵琶湖文化館編・刊 1973年 5-7500-73
こちらは白黒ですが写真付きで、膳所焼、梅林焼、姥餅焼、小富士焼が掲載されています。

工芸品全般を調べる



◆『**工芸図版レファレンス事典（日本・中国・朝鮮）**』日外アソシエーツ 2015年 R-7503-二
日本・中国・朝鮮の工芸作品が、どの美術全集に掲載されているかを調べる事典です。各国を大見出しとして、時代別に工芸品の種類ごとに掲載されています。掲載全集名のほか、各作品の作者や銘、製作年、技法、出土地、所蔵先などの情報もあります。また、巻末に作者名索引がありますので、作者ごとに工芸品を一覧できます。

◆『**人間国宝事典 工芸技術編**』南邦男監修
芸艸堂 2012年 R-7503-二
陶芸、染色、金工などの工芸における各分野で認定された重要無形文化財保持者（人間国宝）や保持団体について、分野ごとに調べられます。それぞれの技術の内容のほか、認定年や経歴などが調べられます。

茶道具を調べる

- ◆『**茶道大辞典**』[本編][別巻] 筒井紘一編
淡交社 2010年 [R-7910-ツ]
利休の時代から現代まで、ひとつひとつの道具は勿論、茶道の伝統と変遷のすべてを網羅した唯一無二の大辞典。
- ◆『**茶道美術鑑賞辞典**』池田巖[編]
淡交社 1980年 [R-7910-イ]
「道具をとおして茶道の組み立ての実際が理解できるのであり、そこから……茶道の美の世界への眼もひらけてくる」というコンセプトで、鑑賞の立場から茶道美術の解明を意図した辞典。各種道具が体系的に分類されていて、実用的な書物です。
- ◆『**茶の湯の銘大百科**』有馬頼底監修
淡交社 2005年 [R-7910-チ]
「銘」とは茶の湯の諸道具の特徴などによって付記する、愛称的な固有名詞。本書は五十音順に並んでさまざまな茶道具とともに「銘」が一覧できます。



陶磁器・漆工を調べる

- ◆『**角川日本陶磁大辞典**』矢部良明編
角川書店 2002年 R-7511-ヤ
陶磁器に関する網羅的な用語辞典。解説とともにカラーの図版が掲載されている項目もあり、視覚面でも充実しています。
付録として、「日本の古窯跡分布図」、「国宝・重要文化財一覧」や「陶磁器関係文献一覧」などがあります。
- ◆『**漆工辞典**』漆工史学会編
角川学芸出版 2012.11 R-7520-シ
漆工についての歴史、史料、技術・材料、人名など、最新の研究成果をふまえた内容の辞典です。解説文には参考文献も記載されているものもあり、さらなる研究を助けます。
付録として、遺跡や国宝の一覧、漆器の構造や名称などが掲載されています。

日本刀を調べる



- ◆『**日本刀大百科事典**』1～5 福永酔剣著
雄山閣出版 1993年 R-7566-1～5
日本刀に関するあらゆる語彙を網羅した用語辞典で、図版も多数掲載しています。5巻巻末の参考文献も役立ちます。
- ◆『**日本刀工刀銘大鑑**』飯田一雄著
淡交社 2016年 R-7566-イ
4,000にのぼる日本の刀工の経歴、事蹟、作柄などを手拓押形・写真図版とともに記述した事典。刀工名の漢字でも五十音でも検索できます。
- ◆『**古刀・新刀刀工作風事典**』深江泰正著
グラフィック社 1984年 R-7566-ジ
古刀の部に150、新刀・新々刀の部に150の刀工および流派の作風を、刃文を掲載して解説した事典です。
- ◆『**刀工大鑑 太鼓版**』得能一男著
光芸出版 2013年 R-7566-ト
古今の7,000を越す刀鍛冶の経歴、作風、参考価格を記述したハンディな事典です。